

「シジュウカラの営巣(8)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka



今回のシジュウカラの孵化の一瞬は、こちらのサイトでご覧になれます。スマホ等でQRコードを読み取って、動画を表示してください。



数分後、卵に入ったひびが少しずつ大きくなって、ヒナが姿を現し始めた。実は鳥類のヒナは、孵化前から卵の中のわずかな空気で、呼吸を始めているらしい。



さらに数分後、ヒナは殻の半分を持ち上げて、完全に姿を現した。その間、親鳥は出かけたままだ。他のヒナも孵化しておらず、一人ぼっち(正確には一羽ぼっち)で、心細かっただろう。



すぐに親鳥が帰ってきた。しかし、最初の子にもかかわらず、何の感動も見せず、最初にしたことは、卵の殻の処理だった。



シジュウカラは、ヒナの卵の殻を例外なくすべて食べてしまう。この時も、ヒナのお尻の下にあった殻も探し出して、バリバリ食べてしまった。殻でヒナを傷つけない為と、自らのカルシウム補給の意味もある。



1卵目が孵化した当日、夕方までにあと2羽が孵化し、巣箱の中は一気に大家族になった。